

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200074		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家みなみ		
所在地	愛知県名古屋南区明円町210-1		
自己評価作成日	平成30年3月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	愛知県名古屋市守山区森孝3-1010		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・料理と一緒に作ることに、力を入れております。オープンキッチンになっており、出入りが自由で、作っている姿も見え、参加しやすくなっています。 ・日中は玄関・リビングは、施錠をしておらず開放的な空間となっています。リビングより自由に庭に出られるため、洗濯物を干したり、寄せたりと職員の見守りの基行っています。 ・ご家族様より好評なのが、週2回更新のブログと月1回の通信紙です。全員の写真とコメントを載せており、特に遠方のご家族様には、元気な姿が見え、喜ばれて安心して頂いております。 ・地域の協力を得て、行事に参加したり、参加して頂いたりして、地域に開かれたホームになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生活を送る」を介護理念として、会議時や勉強会時に唱和をしています。一人ひとりの性格や得意なことを把握して、その人らしく生活が送れるように実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板を見ては行事に参加しています。またホームで町内の方々が大正琴や踊りを披露してくれます。散歩時は挨拶を交わし馴染みの関係を築く様に心掛けています。	いっしょにぼんおどり、町内映画、出席、離説地域、喫茶で保護	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員より相談を受けたり、推進会議の時に相談を受けます。認知症の人の理解や支援方法を分かりやすく伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状況、取組事項、行事について話し合います。色々と提案をして頂けるのでサービス向上につなげています。職員不足を報告した際には、紹介を頂き、今も活躍しています。	2回は包括、4、5人家族参加、	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や社会福祉協議会主催の研修に参加をしています。また福祉祭りには、毎回ブースを設け利用者の作品を出品しています。今検討中ですが、認知症カフェの開催を前向きに考えています。	区役所	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる時以外は、玄関、リビングを施錠しておりません。本社研修で、身体拘束の勉強会があります。職員全員理解しており、身体拘束をしないケアに既に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や本社研修で講習会有り、出席した職員は事業所に持ち帰り他の職員に伝え共有しています。利用者の様子や観察を行い、虐待が見過ごされないようお互いに気を付け、防止に努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や本社研修で学び、管理者、職員は共有しています。これらを活用できるよう支援をしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族が不安を持たぬように、十分に説明をして、理解と納得を図っています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の生活の中で要望や意見を聞いており、家族からは来訪の際に聞いたり、遠方の方は、定期的に意見書を送付し、送り返してもらっています。こうして出た意見は会議の際に話をして、運営に反映させている。	意見書、毎月写真入りのホームだより、ブログ、	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、月1回の本社会議で発表し、代表者は実行できることは、すぐに取り入れて反映させている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心を持って働けるように、一人ひとりの努力や実績を把握して、給与水準等職場環境・条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加しております。働きながらトレーニングができるように努めています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会に参加をして、同業者との意見交換によって、サービスの質の向上に努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活が送れるように、困っていることや不安に思っていること、要望等に耳を傾け信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いに耳を傾け、不安な思いが無くなるように、関係づくりに努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何を求めているのかを見極め、多方面から、何が必要な支援なのか、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活を送る」を介護理念としています。介護するされるのではなく、一緒に生活を送る同士として関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況や変化をその都度伝えるようにし、相談をしながら、共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中で、馴染みの人とか場所、出来事等話しています。家族同行で墓参りに行ったり、寄り合いがあるからと娘さんが呼びに来られ一緒に出かける人もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関わりを把握して、席替えをしたり、一緒にレクや作業をして、和を大事にしています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ソーシャルワーカーやケアマネージャとの相談時に参加をしたり、困った事があればいつでも言って下さいとの電話をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや職員が本人の希望や意向を聞き取っている。ミーティングの際皆で共有し、安心して生活が送れるように努めています。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等、ケアマネ、相談員より、生活歴や暮らし方、生活環境、サービスの利用経過の把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々共に生活を送る中で、一人ひとりの過ごし方、心身状況、何ができるのかを見極めていきます。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員の意向を踏まえ、その人らしく生活を送れるように計画書を作成しています。月1回のモニタリング、カンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画書を作成しています。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入しています。カンファレンス時に報告をし職員間で共有して、実践や介護計画書に反映しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに柔軟に対応しています。マッサージ、ショッピング、外食、外出、受診等サービスの多機能化に取り組んでいます。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに民生委員会長がいます。またホームに民生委員が働いており、大変心強く思っています。近くに公園、緑道、天白川が流れており、緑、花、鳥等自然に触れ楽しく生活を送っています。			
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医を紹介しているが、今までのかかりつけ医でも構わないと説明し、どちらかに決めてもらっています。外部への受診は基本家族ですが、現状職員が付き添っています。			
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携はありませんが、提携医の先生と薬剤師、マッサージの先生等相談に乗ってくれるので心強く思っています。訪問看護と連携を取れるように話を勧めているところです。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーと診療情報提供書を提出しています。面会に何度か出かけ、早期に退院できるように、家族、先生、看護師、相談員との情報交換や相談に努めています。			
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療行為が発生した時は退去、医療処置が発生した時は入院してもらう事を説明しています。本人、家族、提携医、職員等で相談仕合い1日でも長くホームで生活ができるようにしています。			
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や講習会に参加をして、ミーティング時に確認し共有しており、実践力を身に付けています。			
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は利用者参加で年2回、南消防署職員の下行っています。地震、水害についてはその時に一緒に話をしています。民生委員の協力があり、地域との協力体制を築いています。			

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の参加やミーティングで話し合い、一人ひとりが嫌な思いをしないように、職員同士が注意を払うようにしています。職員と利用者との信頼関係ができていますので、これを壊さないように心掛けています。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境であり、本人の思いや希望は表現しやすくなっています。また最終決定は本人ができるように、働きかけています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	「今日は何したい」の職員の問いかけより一日が始まります。一人ひとりのペースに合わせ、洗濯物を干したり、料理を作ったり、散歩をしたり、お喋り等希望に添った支援をしています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理美容が来ます。髪の毛の長さ、カラーの色等美容師と相談をして決めています。その日の服は自分で選んだり、職員と相談をして決めたりとおしゃれを楽しんでいます。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人ができる範囲で参加をしてもらっています。包丁を使用したり、揚げ物、卵焼き、汁物やご飯をよそう、テーブルを拭く、洗い物等一緒にやる事によって、食事が楽しみになるように支援をしています。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は一人ひとり記録に残し、一日のトータルが分かるようにしています。また状態や力に合わせ、柔らかくしたり、一口大にカット、刻み、魚の骨を取る等工夫をしています。月1回体重を測り増減の管理をしています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしています。その人に合わせて歯ブラシ、歯磨きティッシュ、スポンジブラシ、ガーゼ等を使用しています。また歯磨き粉を付けて渡したりと工夫をして、清潔を保っています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、トイレで排泄ができるようにしています。失禁のない人は日中布パンツに替えたり、自立に向けた支援をしています。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便に向けて、提携医、薬剤師、マッサージの先生に相談をしながら、食事量、運動量、水分量等バランスの取れた生活に心掛けています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則隔日に入浴をしています。一人介助が無理な人はリフト浴で対応しています。入浴ができない時は清拭を行い、失禁があれば、その都度入浴やシャワー浴をしています。また季節の行事湯も楽しんでいます。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動や散歩に出かけ日光に当たったりして、日中穏やかに過ごせるようにしています。また布団を干したり、シーツを洗濯したりと、気持ちよく眠れるように支援をしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報があり、職員は理解しています。薬剤師より、気を付けないといけないところ、症状の確認があるので、安心しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、台所仕事、晩酌、ぬり絵、貼絵、散歩、ショッピング等楽しみごとを増やし、気分転換等ができるように支援を行っています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけます。近くの喫茶店へ出かけたり、タクシーでイオンやアピタに出かけます。年に2回はバスでいちご狩りや花見に出かけ、人手がない時は、家族や地域の方がお手伝いをしてくれます。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品を買ったり、アピタやイオンで衣類など欲しいものを購入します。本人はお金は持っておりませんが、一緒に支払いをしています。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるので、掛けるのも受けるもの自由です。手紙は一緒に読んだり、書くお手伝いをして、やり取りができるように支援をしています。			
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下を隔てて居至と居間がありメリハリがあります。またトイレは居間より直接見えない様に配慮しています。日当たりの良い居間の壁面には、利用者の作品や行事の写真が飾ってあります。玄関には家族より頂いた、雛人形や五月人形を飾り、季節感を取り入れ、心地よく過ごせるように工夫をしています			
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設け、自由に使用できるようにしています。また天気の良い日には庭に出て過ごしている方もいます。			
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新たに購入するのではなく、使い慣れた物をお願いしています。入居してからも本人から依頼があれば、家族に伝え持って来て頂いています。日中はリビングで過ごしている方が多いです。			
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターと階段があり、階段を使える方は階段を使用しています。トイレと居室は迷わないように目印を付けています。安全な歩行のため必要な箇所に手摺を設けています。			